

教育委員会では、町内の学齢期の子どもの実態を明らかにし、家庭・学校・地域がそれぞれの立場から、子どもの健全育成のために何をすべきかを考えるために、平成17年5月、町内の小学校3～6年生の児童459人、中学校1～3年生の生徒349人を対象に「学習環境実態調査」を行いました。子どもの学習環境の姿を知っていただき、子どもの健やかな成長についてみんなで考え、みんなで育てる校区コミュニケーションづくりに役立てていただくことを心より期待いたしております。

子どもの学習環境の現実の姿をご存知ですか？

5回シリーズ 第3回

このシリーズの読み方

実態調査は、子どもたちに質問内容を示した後、「自分の思っていることに一番近いものをア、イ、ウ・・・の中から選んでください」となどの形式で実施しました。このシリーズでは、学年ごとに集計した結果をグラフで紹介し、学年または小、中学校ごとの子どもの実態（特徴や傾向、問題点など）についてコメントしながら、町民のみなさんに「これからのよ

り良い子どもの育て方」を考えていただくための質問「Q」も設定してみました。

お子さんがおられる家庭では、親子一緒に話し合われてはいかがでしょうか。

また、隣近所のお母さん、お父さんで「地域の子どもは地域で育てる」方法について立ち話してでもしていただければと願っております。

質問 あなたは、学校に行く日は何時ごろ寝て、何時ごろ起きますか。また、何時間ぐらい寝ますか？

- 寝る時間(午後)
- ア 8時30分
 - イ 9時
 - ウ 9時30分
 - エ 10時
 - オ 10時30分
 - カ 11時以降

コメント 小学生は、三年生は7割近くが9

時30分までに、高学年の五・六年生は7割以上が10時以降に寝ています。さらに、六年生は約半数が10時30分以降に寝る「夜更かし」の傾向が始まっています。

中学生は、10時までに寝るのは、1～2割で、一年生の4割、二年生の6割、三年生の8割が11時以降に寝ています。受験期が近づくと、三年生はさらに「深夜組」が増加することが予想されます。

小・中学生に共通して、全般的に「夜更かし」「深夜組」が増加しています。大人は、健康維持・管理や余暇の

起きる時間(午前)

- ア 5時30分
- イ 6時
- ウ 6時30分
- エ 7時
- オ 7時30分
- カ 8時

コメント 小学生は、三年生の6割が6時30分までに起きますが、四・五年生の半数は7時以降で、かなり遅い起床時間となっています。

登校前の朝食、排便、登校準備などに時間的余裕がなく、一日のスタート時点から学校生活(学業)への適応力が心配されます。

中学生は、一年生の6割、二年生の5割、三年生の4割が6時30分までに起床していますが、三年生の2割は7時半以降に起床しており、学業生活と望ましい生活リズムのあり方について考える必要があるようです。

小・中学生に共通して、健康で円滑な学校生活を送るためには、起床してから家を出るまでに最低1時間を確保する必要があります。

この1時間を確保できないことが朝食を「食べる気がしない」「食べる

時間がない」など、連鎖的な悪影響を及ぼしています。

Q 一日のスタート時点で、余裕ある生活リズムを習慣化するには、家族一人ひとりが、どんなことに心がけたら良いでしょうか？

睡眠時間

- ア 5時間以下
- イ 6時間
- ウ 6時間30分
- エ 7時間
- オ 7時間30分
- カ 8時間
- キ 8時間30分
- ク 9時間
- ケ 9時間30分
- コ 10時間以上

コメント

小学生は、8時間以上睡眠を取る児童は、三・四年生が9割弱、五年生が8割、六年生が7割と、概ね良好と言えます。

しかし、1割～2割弱の児童が7時間以下となっており、就寝・起床と併せて指導する必要があるようです。中学生は、8時間以上睡眠をとっている生徒は、一年生が6割、二年

うちの子 よその子

みんなで考え みんなで育てよう

子どもの現実「学習環境実態調査」から

善用などの観点から「何をするため夜遅くまで起きているのか」を把握し、家族の協力も得ながら「学齢期・成長期の子ども」に合った「健康な生活リズム」を定着させる義務があるのではないのでしょうか。

Q 夕食後の家族一人ひとりの生活時間を、一家団らんと健康の面からチェックしてみましよう。

